

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION



NO.102

www.jsaf.or.jp



オレオがつなげてくれる！

おいしいね！



ヤマザキナビスコ



JSAFからのメッセージ

世界に羽ばたく

今年は、6月にブラインド世界選手権、8月にOP級のアジア選手権と2つの国際レースが開催されました。

外洋では8月にトランスパックに6艇が参加し、ディビジョン別ですが1位や2位の好成績を収めています。9月にはニューヨークヨットクラブのインビテーションナルカップにJSAFは参加します。

また、オリンピック強化委員会を中心に海外での世界選手権大会に参加しています。

とくにスペインでの420世界選手権大会には、ISA Fユースワールドに参加した高校生を含む男子7艇と女子7艇と14チーム28名が参加しています。

ユース中心の選手たちが、将来のナショナルチーム候補となり世界に羽ばたくことを期待しています。

また、JSAFユース制式艇種に420艇が決定したことで、2015年に唐津で420世界選手権大会の開催が決定しました。

9月7日のIOC総会で東京オリンピック・パラリンピック開催が決まる切に願っています



■ジュニア・ユースにも届きます。

J-SAILINGはジュニア・ユースメンバーが所属するおよそ200の団体にお届けしています。各団体のご担当者の方々には、ジュニア・ユースセーラーのためにJ-SAILINGを活用されることをお勧めいたします。

■PDFでも読みます。

JSAFホームページの <http://www.jsaf.or.jp/j-sailing/> にアクセスしてください。J-SAILINGのpdfバージョンが掲載されています。過去の記事を再読したり、本誌が手元にない時にもPCがあれば読むことができます。ご利用ください。

■メールアドレスを教えてください。

デジタル化が進み、電子メールを使った連絡方法が一般的になっています。JSAFもメンバー各位に様々な情報を届ける際、メールを利用することが多くなっています。そこで、各団体の登録業務ご担当の方々にお願いです。メンバーの新規登録や更新登録の際には、必ずメールアドレスを併記していただけるようお願いいたします。

JSAFのメンバーになれば

- メンバーズカードが発行され、公式競技参加の資格が与えられます。
- 会費の一部が傷害保険の保険料に充当され、セーリングの事故による死亡、後遺障害に適用されます。
- JSAFの会報誌「J-SAILING」が送付されます。
- 各種講習会などに参加でき、資格を取得する際の条件に適用されます。
- 「J-SAILING」をはじめ、所属する加盟団体からもセーリングに関する各種行事やレース日程などの情報が提供されます。

加入、更新手続きの詳細は各加盟団体にお問い合わせください。

<http://www.jsaf.or.jp/dantai/>

参加しやすく、
楽しめる大会を目指して

昨年の全日本ミドルボート選手権終了の後、来年も蒲郡で開催してほしいといふ声を聞き、「要望には喜んで応えよう」と蒲郡・三河湾での連続開催を早々に決めました。

基本方針は前年どおりとし、年末には2012年の参加艇へのPR、年明けからは外洋系加盟団体へのPRも進めました。5月に開催された関東、関西ミドルボート選手権の優勝艇をご招待するといふお説いもしました。

両優勝艇が都合で参加いただけなかつたのは残念ですが、関東、関西はもちろん福岡からの参加を得ることができました。参加艇は22艇と昨年を下回りましたが、今年も天候に恵まれ、日を追うごとに風も増し、全10レースとも絶好のコンディションでした。

開催に当たっての実行委員会のスタッフは、参加しやすく、楽しめる大会運営に努めること。関東と関西の中間に位置し、鉄道、道路のアクセスもそれなりによく、風光明媚な三河湾・蒲郡だけに、選手だけでなく応援者の参加もしやすく、応援者が楽しく観られるレースにしたいと考えました。



参加艇の代表者会議を開催

期間中の中日に参加艇の代表者会議を開催しました。運営側の考え方、選手側の意見、要望が話し合えました。「VHFが聞けなかつた」「コースの距離をもう少し長く」「ペナルティーシステムの変更は良」「レース数の消化具合と天候を見ながら、最終日にディスタンスレースを導入できないか」「レースは数でなく中身だ」「2日間でもよい」「来年もぜひ参加したい」「今後も蒲郡で」等々、貴重な意見を聞きました。

この席では来年の開催について関西ミドルボートクラブから関西での開催提案があり、盛大な拍手で決定しました。場所は40周年を迎えるサントピアマリーナ。時期についてはまだ流動的ですが、7月の3連休をベースに検討し、年内には決まるようです。改善意見を加味し、さらに良いミドルボート選手権にします。

このクラスは、8m以上11m未満とレース艇のボリュームゾーンです。今後も開催地は関東、関西、東海のいずれかになると思います。ミドルボートでの遠征は厳しいものがあり、今回は1艇が陸送で参加しています。陸送での参加ができる大きさでもあります。そこで、各地のミドルボート精鋭艇にお願いです。来年、再来年の参加をぜひご検討ください。全日本ミドルボート選手権がさらに発展し、日本全体のヨット界が隆盛することを願っています。

今年、遠征艇の受け入れについては蒲郡海洋開発（株）、ラグナマリーナの協力があつてこそでした。またラグナマリーナヨットクラブはじめ多数のご協力、ありがとうございました。（中村孝／2013全日本ミドルボート選手権実行委員長、東海ミドルボートクラブ会長）

〈MIWA〉、優勝の記

無欲の勝利

（澤野由和／ミワチーム広報担当）

■スピinnの装備がキーポイント

2013全日本ミドルボート選手権に優勝でき、今はホッとしています。

昨年は準優勝でしたので、JSAF外洋駿河湾のメンバーからも、今年の結果に期待する声が聞こえ、プレッシャーを感じていました。悪くとも上位に食い込まないといけないという気持ちがあったので、本当に安堵しています。

今回のレースの勝因はいくつかありますが、その一つは、前回のレースを分析して、やはりガンポール＆ジェネカーでは、上下レースでX35OD等に勝つのは難しいという結論になり、スピinnを装備したことです。

軽風ではジェネカー、順風以上ではスピinnにする、いわゆるハイブリッド方式で、これは関東ミドルボートで活躍している〈GAIJA〉でも実証されていたので、迷いはありませんでした。

しかし、ここからが苦労の始まりでした。

これまでの5年間はジュネカーのみで戦って来たので、スピinnの艤装もクルーウークも一から始めるようになりました。

とくにバウマンについては、昨年はマストマンだった新人の市村をバウマンにコンバートして、今年からスピinnのクルーウークの勉強を始めました。バウマンの基本から教えて、わずか6カ月で本番を迎えることになりましたが、十分な練習と本人のセンスもあり、本番では大きなミスもありませんでした。

ヘルムスマンについては、今年の4月から本格的に練習に参加した永山氏が担当しましたが、チームに溶け込んで見事な舵取りでした。

実際のレースでも、ライバル艇のX35ODに負けない走りとなりました。

レースコースについては、特に極端なコースは引いておらず、左海面を中心としたコース取りで、時に右海面が極端によくなつた時は後れを取つたりもしました。

■今後も大きなレースに参加

全体的には、2日目以降は15ノット前後の順風で「シドニー36CR」が持つボートスピードで勝てたと思います。

また、レーティング対策も苦心し、最終的に

優勝を果たした〈MIWA〉チームの面々



はAクラスでもっとも低いレーティングとなっています。

成績については、初日の第1レースこそ総合2位でしたが、その後は風が落ちてしまい、重量級の〈MIWA〉にとっては苦しい展開になり、第2～3レースは総合で19位と18位という絶望的な結果となり、初日のパーティはチームに暗い空気が流れています。

しかし、翌日は順風のコンディションとなり、第4～7レースは総合で8-1-2-1となり、チームの士気もかなり上がっていました。ただ、2日目を終わった時点で10点差の4位でしたので、優勝はおろかベスト3にも入るのも難しいと考えていました。しかし、逆に失うものはないので、練習の成果をすべて出すつもりで最終日は無心でレースに臨みました。

結果的に第8～10レースを1-1-1という結果とし、なんと逆転で優勝することができたのは無欲の勝利と言えます。

久保田オーナー率いる〈MIWA〉チームは、1980年代から90年代にかけてビックボートで活躍し、海外のレースにも参加していました。その後、レース活動を控えていましたが、08年に現在の「シドニー36CR」を購入し、チームを新たに結成してからは、バールレースでの総合優勝、関東ミドルボートでの準優勝などと活躍しています。チームの完成度も上がって来たので、今後も大きなレースに積極的に参加したいと考えています。

最後に、素晴らしいレースを運営していただいた大会関係者の方々に感謝するとともに、ミワチームのオーナー及びメンバーがミドルボート日本一になれたことを誇りに思います。





第 54 回パールレース

〈HORIZON 6〉が 総合優勝

第 54 回パールレースが 7 月 25 日から 28 日にかけて、
エントリー 52 艇（乗員総数 388 人）で行われた。

無風、強風、落雷・雷雨、潮という目まぐるしく変わるコンディション下、
外洋レースの醍醐味を存分に味わうことができたレースとなった。

ファーストホームの〈MONDAY NIGHT〉と支援いただいた海上自衛隊
横須賀総監部の〈はしだて〉(photo by Sachie Hamaya)



五ヶ所湾のスタート。南東からの 5 ノットを超える風を摑み、オールフェア

クラス分けの新しい試み

ファーストホームは〈MONDAY NIGHT〉(SPRINT 50MOD、外洋東海)で所要時間は27時間33分01秒。終盤からリードを保ちそのままフィニッシュしました。

レース結果は、IRC総合優勝

〈HORIZON 6〉(YOKOYAMA 30R、外洋東海)、Aクラス1位〈LIBERTY III〉(FIRST 40'、外洋湘南)、Bクラス1位は〈ANDIAMO II〉(J/V 9.6R、外洋東京湾)、Cクラス1位

〈EVERYTHING EVERYTHING〉(YAMAHA 33S、外洋湘南)、Dクラス1位〈HORIZON 6〉、ダブルハンド

1位〈THE TIS 4〉(FIRST 40.7'、外洋三浦)となりました。今大会のクラス分けはIRCレーティングシステムのDLRの値を使い、DLR・200未満の船をレース志向の船200以上をそうでない船と大きく分け、レース志向の船はTCCを参考にクラス分けし、同型艇で競えるように配慮しました。

ラス1位は〈ANDIAMO II〉(J/V 9.6R、外洋東京湾)、Cクラス1位

〈EVERYTHING EVERYTHING〉

③「ロングレースでもスタート、序盤が重要」。下2スタート、そして布施田の暗礁を高位置で通過。後続の大型艇は、スピード重視でジェネカー展開する。抜かれてても高さ重視を守りジェノアで冲出しを続けた。迷わず専念できたのは、いいスタートが切れたから。最初のアドバンテージのおかげで、基本方針がぶれず、我が道を行けた。

④「チームワーク」。60代=3人、50代=1人、30代=2人。30代の荒川兄弟は第二世代のセイラー。父上は以前にホライズンでパールレースに参戦した仲間。子どもの時にホライズンに乗った感動が残っているそうだ。あの時のおチビちゃんが立派になって動きの重い年寄達を…… 口は荒いが、お互いに敬意を払う関係。

⑤「縁起を担ぎ、時には必死に祈る」。2年前にあやかり、同じメンバーでの五ヶ所回航、泊りも同じ「旅館二葉」。稻光、落雷の中で「雨よ来ないで、風だけ吹いて！」。大島から江の島で「シーブリーズよ止まらないで」。最後は海鳥に荒川(海)が「トリさん、トリさん、お願いします！」。縁を大切にして、素直な気持ちで祈る。

いろいろ書き出してみたものの、運不運もあるし、理由の後付けは何でもできる。すべては結果論、勝てば官軍です。レースを終えた直後に感じたままを、素直な気持ちで書いたつもりです。レース談議の肴にしていただければ幸いです。

素晴らしい企画と運営をしていただいたレース関係者の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。エントリーされた52艇の皆さま、お疲れ様でした。このところ外洋レースへの参加艇が少しづつ増えています。外洋レースならではの素晴らしい体験、感動のお話分けを、少しでも伝えて拝げていけたらと思います。では、またレースでお会いしましょう。ポンボヤージュ！



〈景虎〉の長尾艇長に喝采

表彰式会場は「江ノ島アイランドスパ」

のレストランで行い、参加艇のフィニッシュ映像やレース航跡図が早速映写され、お互いの健闘を讃えました。

来年はスタート、フィニッシュとともに新たな施設で迎えることになりますが、多くの参加があるよう期待します。

過去4回、3回連続ダブルハンド部門優勝の〈THE TIS 4〉の児玉艇長は、オートバイロットへの信頼があればスケジュール調整を気にせず参加できるダブルハンド部門の魅力を熱く語っていました。

また、最終フィニッシュ艇の〈景虎〉の長尾艇長は念願の単独太平洋横断を果たし、還暦を日付変更線で迎えたという無類のヨットマンであり、大きな拍手が送られ散会となりました。

ここにご協賛、後援の企業、団体および、参加艇オーナー、艇長、乗員や家族、関係者、そして本大会の運営にご尽力いたしました多くのみなさまに改めてお礼申し上げ、レース報告とさせていただきます。(菱田育夫/第54回パールレース・レース委員長)

ました。一方、スタート地の志摩ヨットハーバー・ヴィーヴルオーシャンクラブではクラブハウスが焼失し、大会の開催が心配されました。が、同クラブのメンバーやヨットハーバー関係者の努力により支障なくレース本部を開設することができました。

本部船としてロールコールを担当していただいたのは外洋湘南稲葉会長の乗る「ラッキーレディVIII」です。参加艇の8割が国際VHFを利用して、同艇の45艇がフィニッシュし、5艇のDNE。

最終艇となつたダブルハンド(景虎)は、直前フィニッシュ艇から6時間後の28日12時47分にフィニッシュしてレースを終了しました。

大型艇とともに速い小型艇もフィニッシュが続きましたので、レース成績は小型艇有利となり、総合成績の上位を占めることとなりました。

フィニッシュおよび入港、帰着申告とトラブルもなくスムーズに対応できたのは外洋湘南・江の島ヨットクラブのチームワークの賜物と感服いたします。

(YAMAHA 33S、外洋湘南)、Dクラス1位〈HORIZON 6〉、ダブルハンド1位〈THE TIS 4〉(FIRST 40.7'、外洋三浦)となりました。

今大会のクラス分けはIRCレーティングシステムのDLRの値を使い、DLR・200未満の船をレース志向の船200以上をそうでない船と大きく分け、レース志向の船はTCCを参考にクラス分けし、同型艇で競えるように配慮しました。

今回の江の島のフィニッシュ本部船は、海上自衛隊横須賀総監部の「はしだて」に支援いただけるという僕倆があり

ました。一方、スタート地の志摩ヨットハーバー・ヴィーヴルオーシャンクラブではクラブハウスが焼失し、大会の開催が心配されました。が、同クラブのメンバーやヨットハーバー関係者の努力により支障なくレース本部を開設することができました。

小型艇有利

スタートは7月26日。IRC、ダブルハンド部門ともに午前11時に同時スタート。南東からの5ノットを超える風を掴みオールフェアで素晴らしいスタートをしました。

また各艇の位置情報を素早く取りまとめ、ホームページにアップすることができたのも江の島フィニッシュ本部の受け付け、記録担当者の努力のお蔭です。

ファーストホーム艇に続き午後4時頃までに20数艇がほぼひとたまりとなつてフィニッシュし、その慌しい様子が海まで各艇の位置情報を素早く取りまとめ、ホームページにアップすることができたのも江の島フィニッシュ本部の受け付け、記録担当者の努力のお蔭です。

ファーストホーム艇に続き午後4時頃までに20数艇がほぼひとたまりとなつてフィニッシュし、その慌しい様子が海まで各艇の位置情報を素早く取りまとめ、ホームページにアップすることができたのも江の島フィニッシュ本部の受け付け、記録担当者の努力のお蔭です。

大型艇とともに速い小型艇もフィニッシュが続きましたので、レース成績は小型艇有利となり、総合成績の上位を占めることとなりました。

フィニッシュおよび入港、帰着申告とトラブルもなくスムーズに対応できたのは外洋湘南・江の島ヨットクラブのチームワークの賜物と感服いたします。

大型艇とともに速い小型艇もフィニッシュが続きましたので、レース成績は小型艇有利となり、総合成績の上位を占めることとなりました。

フィニッシュおよび入港、帰着申告とトラブルもなくスムーズに対応できたのは外洋湘南・江の島ヨットクラブのチームワークの賜物と感服いたします。

大型艇とともに速い小型艇もフィニッシュが続きましたので、レース成績は小型艇有利となり、総合成績の上位を占めることとなりました。

大型艇とともに速い小型艇もフィニッシュが続きましたので、レース成績は小型艇有利となり、総合成績の上位を占めることとなりました。

フィニッシュおよび入港、帰着申告とトラブルもなくスムーズに対応できたのは外洋湘南・江の島ヨットクラブのチームワークの賜物と感服いたします。



選手一同、迫力満点の男鹿のなまはげ太鼓を堪能した

テーザー全日本2013 秋田県男鹿マリーナ

■レポート／西 朝子 ■写真／日本テーザー協会



楽しや！遠征

全国で50艇ほどが活動しているテーザークラス。昨年は兵庫県の芦屋、一昨年は神奈川県の葉山、その前は静岡県の浜名湖と全国各地で全日本を開催しています。船体重量が65キロ前後、マストも2本繋ぎと手軽にカートップできる利点を活かし、レースと旅行の両方を楽しもうという、欲張りなセーラーたちです。

今年の全日本は秋田県の男鹿で開催されました。この地にテーザーフリーートはありませんが、男鹿市より「海フェス太おが」のイベントの一つとして招致を受けたのです。テーザーセーラーにとってカートップは当たり前ですが、今回はいつもとは少し様子が違いました。日本海で初めての全日本、なるべく多くの参加艇を集めようと、関東、関西からトラック輸送することにしたのです。

フリートごとに集まっての積み込み作業は、大会の1週間前に行われました。国内最大派閥の葉山フリーでは、学生時代、琵琶湖を拠点に活動していた学連OBの中村賢一さんが積み込み現場隊長として大活躍。遠征準備が早ければ大差気分も盛り上がりります。早く男鹿の海に出たい！ そう思いながら過ごした一週間でした。

7月6、7日、秋田県の男鹿マリーナ沖でテーザー級全日本選手権大会が開催された。日本海での全日本は初めて。宮古、松島からの初参加2艇を含む、全30艇が秋田に集合した。

レセプション、大いに盛り上がる

ところが大会初日は、前線にともなう雨と強風で陸上待機。結局この日はノーレース。日本海でのレースはお預けです。そこで気持ちを切り替え、全日本のもう一つのお楽しみ、レセプション会場へと向かいました。

テーザークラスは社会人が中心で、バラエティにとんだ人たちが集う集団です。初めてヨットに乗った人から、オリンピックキャンペーンの経験者まで、シングルハンド出身からマッチレーサー、オフショアレーサーまで、顔ぶれは多彩です。遠距離恋愛ならぬ遠距離ペアもいて、クルーが週末ごとに夜行バスに乗つてくるチームもあります。相方の都合がつかず、同じような境遇の独り者同士がペアを組む、お見合いチームもよくあります。

出場最年長は、江ノ島フリーの山分信一田口公一組。2人合わせて147歳！ 最年少は葉山フリーの小松俊介くん、12歳（中学1年生）。スキッパーは父親で元全日本チャンピオンの小松充さん。遠来賞は長崎県の田中郁也・紀子夫妻。大阪北港フリーの池田俊則・秋吉寿美子組は片道千キロをカートップでやってきた強者です。

日本海に初見参 テーザー軍団、

QUANTUM

www.quantum-jpn.com
info@quantum-jpn.com

QUANTUM
SAIL DESIGN GROUP

www.wattsmarine.jp

(株)セイルス・バイ・ワツ・ジャパン
本社ロフト

〒238-0233 神奈川県三浦市向ヶ崎町 8-40
電話:046-882-5451 fax:046-882-4319
関西営業所(新西宮 YH)

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 4-14-3
電話:0798-23-6410 fax:0798-23-6420



総合優勝、マスタークラス優勝の二冠を成し遂げた田中郁也・紀子組



松島から参加の鈴木・相澤組



そして、東日本大震災後に寄贈された2艇のテーザーとともに、岩手県の宮古と宮城県の松島から公式レガッタに初参加したのが越田幸樹・伊奈一美組、鈴木みどり・相澤佐紀組の東北チーム。「東北にテーザーフリートを立ち上げること、そしていつかは全日本を東北で」という宣言が飛び出し、やんやの喝采を浴びました。

老若男女が親交を深めたレセプション。第二次会は「なまはげ太鼓」、三次会は秋田三味線ライブと男鹿の演芸を満喫し、初日の夜は更けていきました。

難しかった、男鹿の海

大会2日目。南西の軽風でレースがスタート。波はなくフラットですが、まだ海に入るブロー、右に左に細かく振れる風がやっかいな海面。コース選択とタックのタイミング次第で順位が大きく変動します。左海面の方でブローが強いと思ひきや、右海面にリフトする風があるなど、最後まで集中力を要する状況が続きました。

第1レースでトップをとったのが稲毛フリートの池田陽平・佐野晃組。続く第2レースでは、バルクヘッドハッチに防水スピーカーをセットし、BGMとともに

にレースを楽しむ大阪北港フリートの石川光輝・石黒克司組が1位。徐々に落ちる風の中、最終の第3レースを制したのがベテランの田中夫妻です。

カットレースなしの全3レース。すべてをシングルでまとめた田中組が全日本チャンピオンに返り咲きました。田中組はマスタークラスでも優勝。2位は事前練習9回の即席ペアながら、2011年の全日本チャンプ・スキッパーと、昨年、昨年と全日本二連覇中のクルーの実力を発揮した下村晃司・村尾恭明組。3位は第2レースの成績が悔やまれる軽部香・竜也夫妻組。グランドマスタークラスは池田・秋吉組が、スーパーランドマスタークラスは本吉譲治・安澤厚男組の優勝です。

大会名誉会長の渡部幸男・男鹿市長は、開会式からレセプション、閉会式まですべてに出席。レース当日には防災無線でレース告知が行われるなど、男鹿市あげての歓迎に選手一同、大いに盛り上がりました。

また初日は大荒れの中、2日目はタイムリミットが迫る中、的確にレース運営していただいた秋田県セーリング連盟の佐藤利秋レース委員長をはじめとするスタッフの皆さんに感謝します。



年長の園児たち。年中時代に一度経験しているからか、セーリングの最中でも手を振る余裕がある

のスタッフが中心で行われる。

岸壁に到着した小さなカモメの水兵さんたちに、子ども用のライフジャケットと白いデッキシューズを着けさせていく。

いよいよ乗船。自分で乗ってみたい園児には、目配りを忘れずに、アドバイスしながら、自主性を大切にして一人ひとり、艇へと導いていく。その手際の良さは、これまでの何回かの経験の積み重ねからのものだということが、容易に想像できる。

まずは、年長10人を乗せて、港から青い白杵湾へ。保母さんの1人・姫島茜先生がステアリングを握り、いざ出港。土谷園長の指示を仰ぐでもなく、バウに1人、スタッフに1人とスタッフが付き、乗船準備にも増して、手際の良さが冴える。

「実は、この行事だけでなく、スタッフたちは、かなりヨットにハマつてます。操船は任せにおいて大丈夫。保母さんだけの女性チームでレースに参加したくないですから（笑）」との土谷さんの弁の通り、セーリングの腕前の方も確か。近い将来、そんな保母さんたちの（自分たちだけでレースに参加して、勝つ）希望も叶えてあげたいと、嬉しいような、大変なような、複雑な笑顔を浮かべる園長先生だった。

子どもたちを思いつきり遊ばせたい

ウチの息子が小さい頃、「外に行つてこい」というと、カードゲームを持つて出かけていた。公園の木陰や、校舎の陰で、友だちと集い、対戦に興じているのを見て、苦笑いしたこと思い出す。そんな状況はただ彼らの嗜好だと片づけられるものではない。夏休み前に

持ち帰ったプリントを見ると、海や川など水場には自分たちだけで行つてはいけないと、はつきりと書かれていた。

「先輩たちが経験させてくれたことを、次の世代に継いでいくことが大切なんじゃないでしょうか。危ない、あれしちゃダメ、これしちゃダメの連続で、子どもたちが思いつきり遊べない状況があるから、このお泊まり保育では、思いつきり遊ぶことの大切さをこの子たちに伝えたくて」と土谷園長。

行事として行う上で心がけているのは、やはり安全。しかし、継続していく上で一番大切なのは、そのプログラムが園児はもちろん、親御さんや保育園のスタッフたちが楽しさを感じていてかどうかということだ。

年中の初体験の園児の中には、多少怖がつてか、「言葉少なになる子どももいたが、友達と一緒に青い海でセーリングするうちに、ウインチを回してみたり、ステアリングを握ってみたり、危ない、ダメから解放された艇上での時間を、思い思いに楽しむようになつていく。

初めてヨットに乗った女の子が、港に着いた艇から降りる直前にキヤビンを覗いて「降りてみたい」とひと言。すでに上陸している子たちもいるのだが、「行ってみたら」と奨めてみた。すると、たどたどしくステップを降りて、バウバースやフォクスル、トイレなどをひとしきり覗いてきて、眼をキラキラ輝かせながら、見てきたものを、「あれがああで、それがそうで」と事細かに教えてくれた。

そんな、真っ直ぐな瞳で見て、先入観のないユートラルな気持ちで海に出て、思いつきり遊んできた子どもたちから、海の、そして、ヨットの新たな可能性を教えてくれた気がした。

夢にむかって・・・ セーリングのナショナルチームとユースチームを応援します!

ナショナルチーム・ユースチームの海外遠征の手配、
インド洋の楽園 セーシェルへのリゾートツアー、
障害者スポーツの海外派遣、
フランスへの個人語学留学の手配、
業務渡航その他、海外への各種渡航手配を行っております。

株式会社 グロリアツアーズ TEL:03-6661-9080(代表) <http://www.gloria-tours.jp>

直前情報

第34回アメリカズカップが、9月7日から21日まで、米国西海岸サンフランシスコ湾の中で開催される。高速カタマランAC72クラスによつてどんなレースが展開されるのだろうか。

いよいよ始まる！

2ボートテストを行う防衛チームのオラクル・チームUSA
(ORACLE TEAM USA/PHOTO Guilain GRENIER)



ORACLE TEAM USA / Photo GUILAIN GRENIER

最先端のセーリングテクノロジー

水線長90ftのトリマラン対カタマランによる、アメリカズカップとしてはある意味イレギュラーなレースになった前回の第33回大会(2010年)を経て、今回のアメリカズカップの制式艇には、AC72クラスと呼ばれる、ボックスルーアルによって船体寸法や装備が規定されるダブルハル艇(カタマラン)が採用されました。AC72クラスの主要目は、船体長22m

(72・2 ft)、幅14m、ダガーボード降下時喫水4・4m。マスト(ウイング)高さ40m。これだけの容積を持つ大型艇で、ながら排水量は5900kgしかありません。こんなに船体が軽いこともあって、このAC72クラスはダガーボード下端のフォイルとラダー下端にある昇降舵によって両方の船体を空中に浮かせ、モスクラスのようにフォイリング(両舷の船体を浮かせた状態でセーリングする)して走ることができます。

挑戦するのは3つのヨットクラブ

これまでのアメリカズカップと同様に、前回のアメリカズカップの勝者であるアメリカのゴールデンゲイトヨットクラブ(指名チームはオラクル・チームUSA)に挑戦するヨットクラブは、まずは挑戦者決定戦で勝ち上がらねばなりません。その大会はルイ・ヴィトンカップと呼ばれます。

ルイ・ヴィトンカップは7月7日から8月30日までの、長いシリーズ戦で戦われ、そのシリーズ戦を勝ち抜いた勝者が、9月7日からのアメリカズカップ本戦で、オラクル・チームUSAとカップを奪い合うことになります。

今回のアメリカズカップに挑戦したのは3カ国からの3つのヨットクラブです。スウェーデンから挑戦しているロイヤルスウェーデンシユヨットクラブ(指名チームはアルテミスレーシング)、イタリアのCircolo della Vela Sicilia(指名チームはルナロッサチャレンジ2013)、そしてニュージーランドヨットスコットランド(指名チームはエミレーツチームニュージーランド)です。

この原稿を書いている時点では、この3チームのうち挑戦者決定戦の勝者になる可能性が最も高いと見られているのは、ロイヤルニュージーランドヨットスコ

プは、フォイリングしてセーリングするヨットによつて争われる、初めてのアメリカズカップになるわけです。AC72クラスは、「アメリカズカップは、その時代の最先端のセーリングテクノロジーを注ぎ込んだ性能を持ち、トップ中のトップセーラーでしか乗りこなせない最速のヨットで争われるべきである」という主催者側の強い意図を具現化したヨットだと言えるでしょう。



www.gill.jp
Fortune Corporation
info@gill.jp

RESPECT THE ELEMENTS™

ルイ・ヴィトンカップのセミファイナルを戦うルナロッサチャレンジ2013とアルテミスレーシング。8月10日にルナロッサがファイナルに進出し、チームニュージーランドと対戦することが決まった(ACEA/PHOTO GILLES MARTIN-RAGET)

挑戦候補の呼び声が高いエミレーツチーム
 ニュージーランドのトレーニング(ACEA /
 PHOTO GILLES MARTIN-RAGET)



ドロンが送り出したエミレーツチーム
 ニュージーランドです。

2007年の第32回アメリカズカップ
 で王者アリンギーに惜敗したチーム
 ニュージーランドですが、ディーン・バー
 カーをスキッパーとする今回のチームの
 コアも、そのときのメンバーがほとんど
 を占め、セーリング能力的にも、経験と
 いう点からも、かなりレベルの高い盤石
 なチームに仕上がっているようです。

日本人がかわる
 アルテミスレーシング

防衛側を含めた参加チームの中で、唯一
 ワンボート・キャンペーン(AC72
 クラスは各チーム2隻まで建造すること
 が許されていますが、予算の都合で1隻
 のみしか建造できなかつたチーム。2
 ボートキャンペーンに比べると、当然不
 利だと考えられています。)を開催して
 いるのが、イタリアのルナロッサチャレ
 ニジ2013。ファッショントランプランド企
 業プラダのパトリツィオ・ベリテリ氏
 が率いるルナロッサチャレンジ2013
 ですが、今回は準備期間も短く、予算も
 セーブしての挑戦です。イタリアから今
 回のアメリカズカップに早くから挑戦す
 ことを表明していたヴィンセント。

ヴィトンカップ開幕直前の6月、トレ
 ニング中に彼らのAC72の1号艇が転
 覆し、クルーの1人だったアンドリュー・
 シンプソン氏(スタークラスのオリン
 ピックメダリスト)が亡くなるという事
 故に見舞われてしまいました。この事故
 の影響で2号艇の進水も遅れ、ルイ・ヴィ
 トンカップには8月に始まったセミファ
 イナルからやつと参戦。

ルイ・ヴィトンカップは最初のレース
 からの累計ポイントで争われるため、中
 途から参戦してのボイント逆転は極めて
 難しいと見られていますが、可能性がゼ
 ロであるわけではなく、多くのファンが
 アルテミスレーシングの頑張りに期待し
 ています。このチームには、日本人の鹿
 取正信氏が性能解析担当として加わって
 います。今回のアメリカズカップに関
 係委員会)

オノラト氏が突如挑戦の意思を撤回し撤
 退したあとを受けて、「イタリアの名譽
 回復のために」時間も資金も充分ではな
 いことを覚悟の上で挑戦したのだと、ベ
 リテリ氏はコメントしています。

スウェーデンのアルテミスレーシング

は、優秀なセイラーでありビジネスマン
 であるTorbjörn Törnqvist氏に率い
 られ、早くから準備も始め、チームも強
 力で、資金も潤沢なチームですが、ルイ

オノラト氏が突如挑戦の意思を撤回し撤
 退したあとを受けて、「イタリアの名譽
 回復のために」時間も資金も充分ではな
 いことを覚悟の上で挑戦したのだと、ベ
 リテリ氏はコメントしています。

オラクル・チームUSAの準備とトレ
 ニングも万端のようです。9月第2週か
 らのアメリカズカップ本番までの間、サ
 ンフランシスコ湾内でトレーニングと艇
 の性能アップに激しいセーリングを続け
 ています。

レースを間近に観戦

今回のアメリカズカップの、これまで
 のカップにはなかつたもう1つの特徴
 は、レースコースをサンフランシスコ市
 の岸壁近くに設置し、観光名所である
 フィッシュヤマンズワーフにも近いアメリ
 カズカップ・ビレッジ内の陸上に設営さ
 れた観客席からレースを間近に観ること
 ができる。またテレビの全米ネット
 ワークを持つNBCが、局の歴史始ま
 て以来、アメリカズカップの全レースを
 全国ネットワークの生中継で放映するこ
 とになっています。

この9月は、サンフランシスコの第34
 回アメリカズカップに、是非とも注目し
 て下さい。(JSAFアメリカズカップ

わっている日本人は鹿取氏一人であり、
 その意味からも、アルテミスレーシング
 に注目したいところです。

最強の挑戦者を迎える防衛チーム、
 オラクル・チームUSAの準備とトレ



ASTRON
GPS
SOLAR

SEIKO



現地で練習する坂本亘チーム (photo by Match Racing Denmark)

坂本亘チーム、ネイションズカップで4位

国別対抗マッチレース「ネイションズカップ」
(8月6日から10日、デンマーク・ミゼルファート)に参加した
日本代表の坂本亘チームが4位となった。

アジア地区予選を勝ち抜いての参加

デンマークのミゼルファートはコペンハーゲンから西へ180キロほどの田舎町。男女合わせて17チーム(オープン13チーム、女子4チーム。11カ国、総勢85人)が参加して「ネイションズカップ」が行われた。日本代表の坂本亘チームは6月にウラジオストックで開催されたアジア地区予選を勝ち抜いての参加となった。

13チームが参加したオープンクラスは2グループに分かれラウンドロビンを2回行い、それぞれの上位1チームがまず準決進出を確定させる。次に各グループの2位から4位チーム、計6チームでさらにラウンドロビンを行い、上位2チームが準決勝へ進出するというレース形式だ。

ラウンドロビンを抜け出した日本

6チームからなるグループBに入った坂本チームは最初の2回のラウンドロビンを終えて6勝4敗とし、次のステージ進出を確定させた。しかし、準決勝進出の2枠をかけて6チームでラウンドロビンを戦う次のステージで、坂本

チームは3勝2敗。これで準決勝進出の可能性がなくなったかと思われたのだが、ネイションズカップは国別対抗レース。準決勝では同一国から2チームは参加できないことになっており、国別で順位が繰り上がった日本代表の坂本チームが準決勝進出を確定させた。

坂本チームの準決勝の対戦相手はワイルドカードで参加のデイビッド・ギルモア(オーストラリア)。ベストオブ5の最初の2マッチで1勝1敗としたが、その後の2マッチに連敗し、ファイナル進出はならなかった。

つづく3、4位決定戦(ベストオブ3)ではスウェーデンのVictor Ogemanと対戦したが、1勝2敗となり敗退し、最終結果を4位とした。なお、優勝はデイビッド・ギルモアとなった。また4チームが参加した女子の部ではブラジルのJuliana Senfftが優勝した。

続く若手に期待

坂本チームの戦いぶりは、シエスタセーリングチームのブログ(<http://onedesign.blog.shinobi.jp/>)に詳しく出ているが、今回のネイションズカップの様子は次の文章で締めくく

られていた。

『大会後半、良い感じでボートコントロール、クルーワークができていたのであと一步の所で悔しい結果となりました。しかしながら、初めてのDS37でこれだけ戦えたことには嬉しさがあります。テクニック、スキルが必要な艇で、短期間でここまで上達したクルーメンバーには本当に感謝しています。これからもシエスタセーリングチームの応援よろしくお願いします』。

*

JS AFが推し進めるディンギーとキールボートの境をなくすシームレスなセーリングを具現化してくれる一つがマッチレースだと言われている。今回、アジア地区予選を勝ち抜いて国別対抗レースに進出した同チームの努力に敬意を表するとともに、キールボートの世界にも国を代表して戦う場があることを改めて認識させられたのが今回のネイションズカップだろう。今後も、坂本チームの更なる頑張り、そしてそれに続く若手の成長を期待したい。

オープンクラス成績(上位8位)

- 1位 David Gilmour (豪)
- 2位 Nicolai Sehested (デンマーク)
- 3位 Victor Ogeman (スウェーデン)
- 4位 Wataru Sakamoto (日本)
- 5位 Ashlen Brooklyn (豪)
- 6位 Henrique Haddad (ブラジル)
- 7位 Maximilian Soh (シンガポール)
- 8位 Rasmus Viltoft (デンマーク)

女子クラス成績

- 1位 Juliana Senfft (ブラジル)
- 2位 Lotte Meldgaard (デンマーク)
- 3位 Anne Marit Hansen (ノルウェイ)
- 4位 Sandy Hayes (米)



坂本亘チームの面々 (photo by Match Racing Denmark)

420 WORLD WINNING SAILS

M-9
J-12
S-01
S-05

470 クラスのメジャーレガッタでの連戦連勝、五輪五連覇の偉業を成したノースセール・ジャパンのラジアルカットセール。

その DNA を受け継いだ 420 クラスセールは、すでに世界選手権での優勝や、ヨーロッパのメジャーレガッタで好成績をマークし、世界中のユースセーラーから最も注目を浴びています。

470 クラスで世界を席巻し他のワンデザインクラスでも数々の実績を残し続けている唯一無二のデザインシステム、テストシステムと世界最高峰のクオリティを提供できるクラフトマンシップ。

ノースセールジャパンはその精力を 420 クラスセール製作にも余すところなく注いでいます。

ノースセールは未来の
オリンピックセーラーを応援しています。
ともにオリンピックの表彰台を目指しましょう！

Faster by Design



www.jp.northsails.com

本社・横浜ロフト 045-770-5666

関西ロフト 0798-26-7771

北海道ロフト 0134-25-3227

info@jp.northsails.com

420 WORLDS RESULTS

'09 420 World

Men's 1st Women's 1st 3rd

'11 420 World

Women's 1st 3rd 4th 5th

'12 420 World

Open Class 1st 3rd 4th 5th
Ladies 1st 2nd 3rd 4th

'13 420 World

Open Class 1st 3rd 4th
Ladies 1st 2nd 4th



トレーニングセール発売中。
詳細は WEB サイトにて。

Radial for All

進化し続けるノースラジアルセール。
そのアドバンテージをすべてのセーラーに。



海に出てヨットから見る景色は普段とは違う発見や驚きがあったのではないだろうか

第13回エンジョイ・セーリングデイ

海を感じ、風を感じる、福岡の海

福岡で初の開催

7月20日、福岡市小戸のヨットハーバーで第13回エンジョイ・セーリングデイを開催しました。

このイベントは、『多くの皆様にセーリングの楽しさを体験していただき、日本のセーリング人口を増やそう!』を目的にJSAFレディース委員会が毎年クルーザーを使用して開催しています。

過去12回は、神奈川県逗子市葉山港で開催していましたが、今回は初めての試みとして、特定非営利活動法人福岡セーリング協会及び福岡県セーリング連盟のご協力のもと、福岡市博多湾で実現することができました。

福岡市ヨットハーバーは毎年OPヨット教室やクルーザー教室を開催していることもあり、多くの人たちが夏になれば小戸でセーリングが体験できることを知っています。加えて、毎年、地道な活動を続けている福岡市ヨットハーバーの努力もあり、本イベントは申し込み受け付け開始日から2日で定員いっぱいとなる盛況ぶりでした。

当日は晴天。気温は高めでしたが、風も軽風から中風と初心者にとっては絶好のセーリング日和。参加者の条件を小学生以上とし、また夏休み初日の開催ということもあり、参加者の63名は小学生を中心とした親子での参加が大

多数を占めました。

参加料はスポーツ保険加入料金のみとしたため、参加者にとって負担も少なく、あこがれのヨットに乗れるという魅力のあるイベントだったようです。

ヨットから見る景色に発見や驚き

当日は、セーリングの前にハーバー会議室でロープワークやライフジャケットの正しい着用方法等の講習を行い、クルーザーでの安全、帆走基本をわかりやすく説明しました。



大型カタマランで出港。中川千鶴子JSAF副会長、永井真美JSAF環境委員長も同乗しました。それにしてもたくさん乗れる船ですね

また、『残したいのはきれいな海』をスローガンに自然を守ることの大切さをアピールするJSAFの取り組みを永井環境委員長が説明し、クルーザーやレスユース艇に環境キャンペーンフラッグを掲げ、参加者へ意識の向上を呼びかけ

ました。

参加者は午前の部と午後の部に分かれ、カタマランクルーザーを含む大型クルーザー3艇〈mymy〉、〈LARA〉、〈オットセイ〉に乗船。各艇には経験豊富なオーナーやクルーが同乗し、セーリングが初めての参加者も安心して楽しむことができたようです。

風光明媚な博多湾、博多湾の入口に位置する玄界島、博多湾の中央に浮かぶ能古島、そして玄界に浮かぶ金印が発掘された志賀島、海に出てヨットから見る景色は普段とは違う発見や驚きがあったのではないかでしょうか。

親御さんから「子どもにやってほしいことの選択肢が広がった」という意見がありましたが、私たちにとってとても嬉しい反応でした。また「親子で参加できるイベントを今後も期待している」などの声も寄せられ、参加者のほとんどが「今後もクルーザーやディンギーに乗りたい」「OPヨット教室に参加したい」ということでした。身近に海を感じ、風を感じ、ヨットを好きになってもらえたようです。

レディース委員会としては、今後も会員増強への地道な一歩として、セーリング体験会を継続していくことが重要であると感じました。エンジョイ・セーリングデイを無事に終えることができ、ご協力いただきました福岡の皆様方に心から感謝申し上げます。(吉留容子/JSAFレディース委員会委員長)

国際VHF 無線用免許講習会

舵社主催
KAZI マリンスクール
海上特殊無線技士講習会を
10%割引で受講できます
JSAFメンバー
限定割引

専用申込書が必要です

お申し込みには、JSAF会員限定の専用申込書が必要です。専用申込書はJSAFホームページからダウンロードするか、KAZIマリンスクールまでお電話でご請求ください。

【お問い合わせ・申込用紙請求先】
JSAF外洋安全委員会ホームページ
jsaf-anzen.jp/1-7-2.html
KAZIマリンスクール
TEL 03-3434-0941

必ず
JSAFメンバー
専用申込書と
お伝え下さい。

お申し込みは、 ファックスで、 JSAFまで

お申し込みには、JSAF会員限定の専用申込書に必要事項をご記入いただき、JSAF外洋安全委員会までFAXにてお申し込み下さい。

【受講申込みFAX送付先】
JSAF外洋安全委員会
FAX 045-544-5813

お支払はカード、 現金書留、 お振込等で

JSAF外洋安全委員会にお申し込み後、KAZIマリンスクールより受付確認の連絡を入れさせていただきます。その際にお支払方法をご指定ください。各種クレジットカード、銀行振込、現金書留でのお支払がご利用いただけます。また、システムKAZI会員の方はシステムKAZI自動引き落としもご利用いただけます。

第2級海上特殊無線技士 軽減コース

【受講料】
28,000円 → **JSAF会員
限定価格 25,200円** (税込)
(免許申請料、教科書代含む)

第2級は国際VHF25WまでとDSCの運用が出来る資格です。軽減コースは第3級からのステップアップコースで、第3級海上特殊無線技士資格を持つ人のみ受講可能です。1日7時間の講習を受講し、終了試験に合格すると資格を取得できます。

第23回
東京
教室

2013.8.25 (日)
AM9:00 - PM7:30

【会場】LMJ 東京研修センター 4F 大会議室
東京都文京区本郷 1-11-4 小倉ビル (東京ドーム近く)
【定員】50名 (定員になり次第閉め切らせていただきます)

第24回
大阪
教室

2013.9.8 (日)
AM9:00 - PM7:30

【会場】此花会館 402、403号
大阪市此花区西九条 5-4-24
【定員】50名 (定員になり次第閉め切らせていただきます)

第25回
名古屋
教室

2013.10.6 (日)
AM9:00 - PM7:30

【会場】ゼミナールプラザ第7会議室
名古屋市中区正木 3-7-15
【定員】50名 (定員になり次第閉め切らせていただきます)

第3級海上特殊無線技士

【受講料】
23,000円 → **JSAF会員
限定価格 20,700円** (税込)
(免許申請料、教科書代含む)

国際VHF、5Wまでの運用ができる資格です。1日6時間の講習を受講し、修了試験に合格すると資格を取得できます。どなたでも受講出来ます。

第38回
東京
教室

2013.11.17 (日)
AM9:00 - PM6:30

【会場】LMJ 東京研修センター 2F 特大会議室
東京都文京区本郷 1-11-4 小倉ビル (東京ドーム近く)
【定員】50名 (定員になり次第閉め切らせていただきます)

第39回
大阪
教室

2013.12.8 (日)
AM9:00 - PM6:30

【会場】此花会館 402、403号
大阪市此花区西九条 5-4-24
【定員】50名 (定員になり次第閉め切らせていただきます)

- 最新の講習会日程については、KAZIホームページをご覧頂くか、KAZIマリンスクールまでお問い合わせください。
- 各回定員になり次第締切となります。
- 申込書をご送付いただいた場合でもお断りする場合があります。
- 受講料入金時をもって正式申込みとさせていただきます。
- 完全予約・定員締切のため正式申込み後の日程変更および返金はできません。

受講申込みFAX送付先
JSAF外洋安全委員会

FAX 045-544-5813

国体ウインドサーフィン級、東京国体から再始動！

■国体ウインドサーフィン級19年の航跡

1980年後半、ウインドサーフィンは世界的な隆盛を極め、強い風と高い波に乗るウェーブフォーマンスや強風域でのスピードを競うスラローム競技、そしてヨットレースを手本としたコースレースなどの様々な種目が生れ、それぞれ独自の進化を遂げた。

とりわけ、センターボード付きのロングボードで競うコースレース競技は、海域、コンディションを問わず大会が開催できることから世界中で流行した。そしてオリンピックでもほぼ同規格のミストラル製IMCOが採用されたことで、アマチュアをも巻き込み一層の人気を博すこととなった。

日本でも毎週のように各地で数百名を集める大会が開催され、日本ウインドサーフィン界の中核をなすようになると同時に、よりメジャーなタイトルを望む声も高くなった。そして1994年、選手、業界関係の圧倒的な支持をバックに、愛知わかしゃち国体より、ほぼ全県のエントリーをもって正式種目としてスタートすることになった。(女子は1998年神奈川ゆめ国体から開催)

■変わりゆくコースレーシングトレンド

2000年頃からメーカー各社はより低い風域から簡単にプレーニングできるエクイップメントの開発に軸足を置き始めた。その傾向は、2004年アテネオリンピック終了後に発表された規格変更により一層顕著になった。そしてこの規格変更が、現在の五輪公式艇ニールプライド社RS:Xに代表される「ハイブリットボード」の開発を加速させ、その後世界のトレンドとなっていく。

結果、これまでの規格は「クラシックボード」と呼ばれるようになりメーカー各社は次第に生産を取りやめ、選手はいるのに道具が入手できない状態に陥ることとなった。

この事態を憂慮したJSAF国体委員会は国体クラス規則の見直しに着手し、ISAF国際レースボードクラスR310の設立を受け、ほぼ同型のハイブリットへの変更を決定、本年の東京国体から採用されることとなった。

〈東京国体の注目選手〉

富沢慎（新潟県）／ロンドンオリンピック28位、北京オリンピック10位、オリンピック出場2回の日本コースレース界の第一人者。



■早くも効果が出始めた規格変更策

今回の規則改正は、直ちに国体予選の開催県増加、国体参加艇数増加という結果に表れた。※2013年は予備エントリー数

男子 2012年大会 36県→2013年大会 44県(前年比約120%)

女子 2012年大会 25県→2013年大会 26県(前年比約104%)

主な理由としては、体型やテクニックに合わせて選択するエクイップメントの幅が広がり誰もが同じ土俵で戦える公平さを追求したこと、1セットで幅広

いコンディションに対応でき選手や県連の負担が最小限で済むようになったことがあげられる。

また、国体と同じクラスルールでワンデザインレースを行う学連選手も気軽にチャレンジできることも見せない。

世界標準の規格採用が以前のように「国体から世界」につながるルートになることが多いに期待したい。

JWAでは、今後さらに各選手への国体関連のインフォメーションを充実させるとともに、各県連との連携を強め同クラスの一層の発展をサポートする考えだ。



代表的なハイブリットボードの1つ「NEILPRIDE RS:X ONE」



「TECHNO293」は学連の公式艇でもある

板底雄馬（滋賀県）／12年度インカレ優勝。昨年2年生ながらインカレのタイトルホルダー。リオ五輪を視野に入れ勢いに乗るアップカマー。



須長由季（東京都）／ロンドンオリンピック21位。地元開催で気合いの入る注目選手。特に強風域で抜群の強さを発揮する。



世界の海を
知り尽くしたヤンマーが、
いま世界最高峰のレースへ。



©ORACLE TEAM USA / Photo : Guilain GRENIER

www.yanmar.co.jp

本社／大阪市北区鶴野町1-9 梅田ゲートタワー(〒530-8311) TELダイヤルイン(06)6376-6223 **ヤンマー株式会社**

「感謝な心」で
信頼の医療サービスを
ご提供いたします

病院部門
北柏リハビリ総合病院(217床)

健診センター
柏健診クリニック
汐留健診クリニック

クリニック部門
西浦眼科
まちや外科内科
梅郷整形外科クリニック(13床)

訪問看護ステーション
北柏訪問看護ステーション

在宅福祉事業部門
エンゼルサービス野田(訪問介護)
エンゼルサービス柏(介護ショップ・訪問介護)

介護老人保健施設部門
梅郷ナーシングセンター(124床)
北柏ナーシングケアセンター(120床)

介護老人福祉施設部門
みゆきの郷(120床)
流山こまぎ安心館(110床)

介護福祉部門
梅郷ナーシング居宅介護支援事業所
北柏リハビリ総合病院居宅介護支援事業所
居宅介護支援センターみゆき
居宅介護支援事業所 こまぎ安心館

研究部門
日本成人保健医療問題研究所



天宣会グループ



〒277-0021 千葉県柏市中央町1-1 TEL 04-7167-6667(代表) www.tensenkai.or.jp



ミズノは2020年の東京招致活動を
応援しています。



会えるのは、
室伏選手だけじゃない。

21競技、300名以上の有名アスリートが
講師に登録。ミズノのスポーツ振興イベント
「ミズノビクトリークリニック」。

キミも、有名選手に会えるかも！「ミズノビクトリークリニック」は、オリンピックや世界大会など…
さまざまな舞台で活躍したミズノの契約選手や
社員選手を講師に招き、実技の指導や講習、サイン
会やトークショーなど行うイベントです。講師に登録
している選手は21競技300名以上。スポーツは
もっと好きになると、きっと、うまくなるよ。



スポーツの楽しさを伝え、広めています。

開催レポートはこちから… **Victory Clinic** <http://www.mizuno.co.jp/victoryclinic/>
mizuno.jp ☎ 0120-320-799

Full Speed Ahead

Carrying dreams,
Carrying the future

子供たちの未来が輝かしいものであって欲しい。そのためには運び続けます。
ヒトやモノを運ぶことが、夢を運ぶことにつながると信じて。船だからこそできること。
商船三井だからこそ、できることがあります。 www.mol.co.jp

MOL 商船三井

CATCH THE WIND

YAMAHA
SAILING CRUISER
&
DINGHY SERIES



●お問い合わせは

◎ディンギヨット／ オクムラボート販売株式会社 〒671-0111 兵庫県姫路市形町の形2013 tel.0792-54-5630 <http://www.okumuraboat.co.jp>
◎クルザヨット／ ニュージャパンヨット株式会社 〒421-0502 静岡県牧之原市白井7-9 tel.0548-54-0221 <http://www.njy.co.jp>



関西ヨットクラブ



Vision &
Work
Together!

J-Will Partners



環境キャンペーン・協賛社



YANMAR



外洋キャンペーン・協賛社



日東ベスト株式会社



大塚商会



トヨタ自動車東日本株式会社
TOYOTA MOTOR EAST JAPAN, INC.

マリンサービス兜嶋



ゼニヤ海洋サービス株式会社



ハイ・ファースト産業(株)



スバル興業(株)
東京夢の島マリーナ



エース損害保険(株)



NPO法人福岡セーリング協会

(株)グロリアツアーズ

日本興和損害保険(株)



株式会社宅配



NO.102

22艇が集まった全日本ミドルボート2013で優勝した
<MIWA>のウェーブマーク回航
(photo by J-SAILING)

Message

東北福祉大ゴルフ部に在籍しながらプロに転向した松山英樹選手。スポンサーの恩恵で海外ツアーに参加して予選落ちを繰り返すばかりだったこれまでの歴史を、彼は「実力」によるメジャー制覇で塗りかえてくれるんじゃないかな。久しぶりに胸躍らせ、注

目しています。JSAFでも世界につながるセーラーを育成するため420とレーザーラジアルの総体・国体での採用が決まりました。オリンピック制覇につながるユースを支援してワクワクしませんか。

(柳澤康信／広報委員会委員長)

誤：「420とレーザーラジアルの総体・国体への採用が決まりました。」

正：「420とレーザーラジアルの国体への採用が決まりました。」

J-SAILING
JAPAN SAILING FEDERATION

J-SAILING No.102 平成25年8月25日発行 通巻456号 昭和42年12月25日第三種郵便物認可発行／公益財団法人日本セーリング連盟広報委員会 〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1

電話 03-3481-2357 フax 03-3481-0414 E-MAIL head@jsaf.or.jp

発行人／河野博文 編集人／柳澤康信 編集スタッフ／エディター・豊崎謙、フォトグラファー・濱谷幸江、デザイナー・加瀬倫有定価／300円 (JSAF会員は会費に購読料が含まれています)

www.jsaf.or.jp



45rpm studio co., ltd.



JAPAN AIRLINES

昭和42年12月25日第三種郵便物認可 平成25年8月25日発行 通巻456号

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION

定価300円

NO.102



新しい翼で、世界の空へ。



member



明日の空へ、日本の翼